2016年3月19日（土） 13:30-17:00

主　催：日本建築学会関東支部
会　場：日本建築学会建築会館ホール（東京都港区芝 5-26-20）
定　員：２００名

シンポジウム
個室群住居の現在
- われわれの居場所を今、あらためて問う

■ 個室群住居は 1960 年代末に建築家黒沢隆によって提唱された住居モデルである。近代社会にあって住宅は家族を前提としてつくられてきたが、社会の成熟にともない自立を強めていく「個」のための住まいはいかにありうべきか。今日シェアハウスやコレクティブハウスなどのかたちで現象している問題にいちはやく光を当て、建築分野を超えてひろく議論されるきっかけとなった。このときからはや半世紀を経ようとしているいま、わたしたちの生活は多様化しながらも、その支えとなる社会的枠組みはより一層見えづらくなってきているように思える。本シンポジウムでは、個室群住居によって提起された問題をあらためて取り上げ、今日的視点からの問い直しを試みることで、いまなお模索がつづくわたしたちの住まいのあり方を検証していきたい。

まず、個室群住居のアイデアが生まれた時代背景はどのようなものだったのだろうか。近代社会への異議申し立てがさまざまなかたちで表出していた 60 年代末、あの激しい渦のなかで近代建築に対する批判的検証もまた着手されようとしていた。第 1 部ではこの時代を牽引されたお二人に基調講演をお願いし、現代へとつながる、建築・都市の新たな取り組みがいかにして生まれていったのか、当時の建築家たちが置かれていた状況などを振り返っていきたい。

また第二部では各論として、それぞれ異なる立場から個室群住居の意義について読み直しを進めていく。設計論として個室群住居をとらえた場合、この半世紀におよぶ時間の経過のなかで、その位置付けははたしてどのような視点から可能なのだろうか。また、社会学的見地からながめたとき、この住居モデルをとおして現代社会のどのような構造が見えてくるのか。家族のあり方も大きく変わりつつある。住宅と社会を結ぶ中間的領域にいかなる変質が進行しているのか確認していきたい。設計論、社会学、建築史など異なる分野からパネラーを迎え、個室群住居が問い掛けた「われわれの居場所」とその現在について、多角的な観点から討論を進めていきたいと思う。

■ プログラム

1．開会の挨拶　(13：30 ～ 13：35)　　鉾岩崇（関東支部事業企画検討委員会委員長）
2．主旨説明　(13：35 ～ 13：40)　　山中新太郎（日本大学・関東支部建築計画専門研究委員会主査）
3．基調講演　(13：40 ～ 14：20)
　1）個室群住居の生まれた時代　　**植田実（編集者・建築評論家）**
　2）建築家黒沢隆の先見性　　**山本理顕（山本理顕設計工場）**

―― 休　憩 (14：20 ～ 14：30) ――

4．各論発表　(14：30 ～ 15：30)
　1）個室群住居について　　**西沢大良（芝浦工業大学）**
　2）住宅と家族をめぐる問題構成－住宅社会学の立場から　　**山本理奈（東京大学）**
　3）近代住居の内的構造－「普通の家」をめぐって　　**田所辰之助（日本大学）**

―― 休　憩 (15：30 ～ 15：40) ――

5．パネル・ディスカッション　(15：40 ～ 17：00)
　「個室群住居の現在―われわれの居場所を今、あらためて問う」　　基調講演および各論発表者
　モデレーター：田所辰之助（前掲）

□ 参加費　：**会員 1,000 円 会員外 1,500 円 学生 500 円**

□ 申込方法：**こちらよりお申込みください。**
日本建築学会関東支部 HP　http://kanto.aij.or.jp/

□ 問合せ先：日本建築学会関東支部
E-mail: kanto@aij.or.jp
Tel: 03-3456-2050

■ 特別展示「黒沢隆と個室群住居」

※ 当日 10:00 ～ 19:00、会場に隣接する建築会館ギャラリーにて「黒沢隆と個室群住居」の特別展示を行います。シンポジウムの前後に是非ご鑑賞ください。

□ 特別展示協賛：株式会社建築資料研究社 日建学院